

教育学部生がオンラインで校内研修に参加することの効果分析

Effect Analysis about Undergraduate Students Joined In-school Training by Online

野口 勇希^{*1}, 北澤 武^{*2}

Yuki NOGUCHI^{*1}, Takeshi KITAZAWA^{*2}

^{*1} 東京学芸大学教育学部

^{*1} Faculty of Education, Tokyo Gakugei University

^{*2} 東京学芸大学大学院教育学研究科

^{*2} Graduate School of Teacher Education, Tokyo Gakugei University

Email: a181413k@st.u-gakugei.ac.jp

あらまし：本研究では新型コロナウイルスの影響により、オンラインで行われる校内研修に教育学部生が参加することで、これからの教員に求められる資質・能力の向上にどのような効果をもたらすのかについて分析した。その結果、学生は教員の支援体制や教員同士で情報を共有しながら学びを深めることなどを理解することが分かった。

キーワード：小学校、校内研修、オンライン、ICT活用、プログラミング教育

1. はじめに

教員には研修が求められており、各自治体の教員研修に参加する機会があるが、日常的に取り組むことができる研修として校内研修が挙げられる。それらに教員が積極的に取り組むことで、日々の授業改善が図られ、子供の学力向上の礎となる⁽¹⁾。

2020年度は新型コロナウイルスによる影響で、外部講師を学校に招いた校内研修が困難になった。そこで一部の小学校では、オンラインで外部講師と接続し、校内研修を行う取り組みがなされた。これにより、教育学部生も遠隔から校内研修に参加することが可能になった。

本研究では、オンラインで行われる校内研修に教育学部生が参加することで、これからの教員に求められる資質・能力の向上にどのような効果をもたらすのかについて分析することを目的とする。

2. 調査概要

2020年6月25日に東京都内のA小学校で行われた。「ICT活用とプログラミング教育」についての校内研修に、教育学部生10名と、大学院生1名の計11名(男6名,女5名)がオンラインで参加した。教員研修は、情報教育を専門とする大学教員の講演で、オンラインシステムを活用した授業の方法を学ぶ目的と「ICT活用とプログラミング教育」のテーマについて講演を聴く目的で、1時間30分程度行われた。

はじめに、大学の指導教員によるテレビ会議システムの扱い方の講演を聞いた後、A小学校の教員と学生が混ざって、4名程度のグループを作り、ICT活用やプログラミング教育に取り組むにあたりどのような意識を持つ必要があるかについて、ブレイクアウトルームで話し合った。その後、上記のテーマの講演を視聴し、質疑応答した。

教育学部生は各々のパソコンやスマートフォンで参加した。A小学校の教員は、学校にいながら

それぞれ異なる教室からオンラインで参加した。

3. 分析

3.1 質問紙調査

質問紙調査(全28項目)は、オンライン校内研修に参加した後に行われた。オンラインで校内研修に参加したことで校内研修にどのような印象を持ったか⁽²⁾、校内研修に参加したことでどのような能力が高まると考えられるかについて⁽³⁾、5件法で問い、回答結果について、質問紙の尺度の中央値(3)を閾値とする母平均の検定(t 検定)を行った。

3.2 自由記述

質問紙で(1)オンライン校内研修を参観して学んだこと(2)オンライン校内研修を参観してさらに学びたくなったことについて自由記述で問うた。得られた回答結果から、「オンライン校内研修への参観」の及ぼす影響について分析した。

4. 結果と考察

4.1 質問紙調査の結果

4.1.1 校内研修の在り方について

表1は、有意差が認められ、かつ、平均値が中央値(3)よりも高い、好意的な項目と判断できたもののみを示した表である。結果、「23. 校内研修がどのようなものかを知ることができた($t(11) = 21.0, p < .01, M = 4.90$)」が、有意に肯定的な回答が多いことが分かった。よって、教育学部生の多くは校内研修をオンラインで参加したことで、校内研修の様子を知ることができたという認識であることが分かった。

オンライン校内研修を通して得られた事柄として「5. 分からないことが生じたときなど、助言や援助をしてもらえる体制が整っていることが理解できた($t(11) = 8.04, p < .01, M = 4.63$)」、「25. オンライン校内研修に参加して、教員間のやりと

表1 質問紙の結果（中央値（3）を母平均とする検定（ t 検定）：有意差が見られた項目のみ

項目	平均値	標準偏差	t 値	p 値	信頼区間（95%）		効果量（ r ）
					下限	上限	
23. 校内研修がどのようなものかを知ることができた。	4.90	0.09	21.00	.000	4.71	5.11	0.99
10. 講師を招くと、教員は専門性について考えられることが理解できる。	4.81	0.12	14.90	.000	4.55	5.09	0.98
8. 教員同士がICT活用やプログラミング教育の方法を共有することで、指導の参考になることを理解できる。	4.72	0.14	12.26	.000	4.41	5.04	0.97
9. 教員全員が一度は研究授業を行うことが、ICT活用やプログラミングの指導力を高めるうえで必要であることが理解できる。	4.72	0.14	12.26	.000	4.41	5.04	0.97
5. 分からないことが生じたときなど、助言や援助をしてもらえる体制が整っていることが理解できる。	4.63	0.20	8.04	.000	4.18	5.09	0.93
24. 今後、校内研修に率先して参加できそうだ。	4.63	0.15	10.75	.000	4.30	4.98	0.96
25. オンライン校内研修に参加して、教員間のやりとりを知ることができた。	4.63	0.20	8.04	.000	4.18	5.09	0.93
13. 管理職と教職員が一体的に授業研究に取り組んでいることが理解できる。	4.54	0.21	7.45	.000	4.08	5.01	0.92
1. 校内研修の成果や課題を授業計画に生かすことができる。	4.45	0.16	9.23	.000	4.10	4.81	0.95
11. 個々の教員に授業力を高めようという意識を感じることができる。	4.27	0.27	4.66	.001	3.67	4.88	0.83

りを知ることができた ($t(11) = 8.04, p < .01, M = 4.63$)、が有意に肯定的であった。これらの結果から、教育学部生はオンライン校内研修に参加することで、教員の支援体制の在り方を知ることができる可能性が示唆された。

4.1.2 ICT活用やプログラミング教育について

オンライン校内研修を通して学んだICT活用やプログラミング教育について見てみると、「10. 講師を招くと、教員は専門性について考えられることが理解できた ($t(11) = 14.9, p < .01, M = 4.81$)」、「8. 教員同士がICT活用やプログラミング教育の方法を共有することで、指導の参考になることを理解できた ($t(11) = 12.26, p < .01, M = 4.72$)」が有意に肯定的であった。校内研修、研究授業では、教員同士でICT活用やプログラミング教育について共有されており、さらに外部講師を招くことでより学びを深めることができるということを、多くの教育学部生が理解したことが明らかになった。

4.2 自由記述

オンライン校内研修を参観して学んだことについて、「校内研修がどのように行われているか、先生方はどのような意識で校内研修に臨んでいるのかを学んだ」等の回答を11件中7件（66%）得た。このことから、教育学部生がオンラインで校内研修に参加すれば、校内研修のイメージを持つことの他に、ICTの活用方法やこの重要性について、考えることができるようになるかもしれない。

また、オンライン校内研修を通してさらに学びたくなったことについて、「現場の先生方との意見交換をもっと活発に行いたい」といった回答が11件中7件（66%）得られた。これらの教育学部生の欲求を満たすためには、オンライン校内研修に繰り返し参加しながら現職教員と意見交換の場をより多く得たり、本研究とは異なる学校と交流したりすることが考えられる。さらに、実際に学校に訪問して、授業を参観した後に校内研修に参加することが重要であるため、オンラインと対面によるハイブリッド型での参画について検討することが求められる。

5. おわりに

本研究では、教育学部生が「ICT活用とプログラミング教育」についての校内研修にオンラインで参加することで、これからの教員に求められる資質・能力の向上にどのような効果をもたらすのかについて分析した。その結果、教育学部生の認識として、校内研修とはどのようなものであるかを知ることができ、研究の内容について教員同士で共有しながら学びを深めている姿勢や教員の支援体制について理解できることが分かった。

校内研修の際に、教育学部生が実際に学校訪問したり、今回の研究とは違うケースで行われる校内研修に参加したりすることが求められる。だが、新型コロナウイルスの影響で、頻繁に対面で参加することは難しい。今後の課題として、プログラミング教育以外のオンライン校内研修を扱ったり、外部講師を呼ばずに校内研修を行う方法を理解したりするための方法を検討することが求められる。また、対面とオンラインを融合したハイブリッド型の校内研修を運営したり、参画したりする方法と、これによる教育学部生の教員の資質・能力に与える影響について検討したい。

参考文献

- (1) 文部科学省：“学力向上に向けた校内研修の充実に関する一考察：A小学校における校内研修の実態把握と工夫改善に向けた具体的方策”，<http://s-ir.sap.okkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7538>（参照日：2020.10.27）（2014）
- (2) 小清水貴子ほか：“校内におけるICT活用推進を促す教員研修の評価方法の提案と効果の検証”，日本教育工学会論文誌，38(2): 135-144（2014）。
- (3) 福本昌之ほか：“教員の意識調査に見る教育の情報化に関する現状と課題”，川崎医療福祉学会誌，24(1): 33-46（2014）。